

えぬびい! Oh!

2016 夏
Vol.63

▶2P~3P
やってみたい!をみんなで叶える
~クラウドファンディング・FAAVO 高知の活用術~

▶4P~5P
優しい社会へ「認知症カフェ」
ココロのよりどころ『えいとカフェ』

▶6P
ぽ~れぽ~れ
公益社団法人認知症の人と家族の会高知県支部

▶7P
愛宕中学校の挑戦!
生徒によるチャレンジ、地域貢献で商店街活性化



クラウドファンディング・FAAVO 高知の活用術～

NPOで活動をするなかで、資金が足りなくて活動できない！そんなことはないだろうか。寄付や投資など、資金を調達する方法はいくつかあるが、近年、主にインターネット上で募集や支援を行うクラウドファンディングという方法が注目されている。この4月から始動した、地域支援特化型クラウドファンディング・FAAVO(ファアボ)高知について高知銀行の岡田一水^{かづみ}さんにお話を伺った。

○新しい寄付のかたち

クラウドファンディングとは、群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)を組み合わせた造語で、その名のとおり大勢から資金を集めるという調達方法だ。

例えばNPO活動などの利益が出にくい事業においては、寄付や助成金を集めるのに苦労することが多い。しかしこの方法なら調達者のリスクが少なく、熱意に賛同した人は誰でも、どこからでも支援者となれる。ただし、期間内に目標金額に達しなかった場合、プロジェクトは不達成となってしまうので注意が必要だ。クラウドファンディングの種類は、支援への見返りの形態によって大きく3つに分けられる。1つ目は援助に対する見返りを設けない寄付型、2つ目に金銭による見返りがある投融資型、そして3つ目に資金を援助するとその見返りとして返礼品が贈られる購入型である。

例えば、映画を撮ったり科学研究をしたりする

ための資金を集めるなど、さまざまな目的で活用されている。

(参考: Wikipedia からクラウドファンディング)

○つながる可能性

FAAVOとは、全国58の地域で行われている、地域支援に特化したクラウドファンディングシステムである。高知では、高知銀行の連結子会社である(株)オーシャンリースが地域オーナーとなり運営している。

FAAVOは購入型で、プロジェクトが達成された後も、支援者の手元に返礼品という形で残る。これによって、プロジェクトが終了しても資金調達者と支援者とのつながりが保たれ、モチベーション向上にもつながる。ほかに、返礼品を新製品にすることで、消費者の嗜好やニーズをさぐることができ、今後の商品開発に役立つ。プロジェクトが成功しビジネスに育てば、そこから銀行の融資を受けてさらに拡大できる可能性も生まれる。

○熱意をアピール

それでは、より多くの人が支援してくれるためには、どのように企画すればよいのだろうか。「資金調達者の思い×返礼品×活性化、この3つの結びつきが重要」と岡田さんは言う。支援者の共感が強いほど、支援が多く集まる。お礼の手紙や自社製品、FAAVOだけの限定製品など魅力的な返礼品であれば、さらに援助金額や支援者が増える。「とはいえ、やってみないと

いう思いが一番大切。どんどん相談して」とのこと、心強い。

FAAVO高知のプロジェクト第1弾は、「介護現場の『聞き書き』から生まれた車イス対応テーブルを販売し、価値共創型介護を広めたい!」。車イスの移動に関するバリアフリー化は進んでいる一方、レストランなどの食事用のテーブルにおいては、そのような配慮はほとんどされていない。車イスの高さとテーブルの高さが合わず、食卓を囲むことができないのだ。そんな現場の声を聴き、製品化したものを返礼品として掲げた。調達した資金はデイサービス活動のために利用する。このプロジェクトの場合は5つのコースに分かれていて、買い物のような感覚で支援することができる。

58,000円(税込)
約19名(予定)



お礼のお手紙
車イス対応テーブル

20,000円(税込)
約7名(予定)



お礼のお手紙
ぼろ布、もみ返し、ギフトセット

10,000円(税込)
約3名(予定)



お礼のお手紙
ぼろ布、車イス対応ギフトセット (高知産)

4,000円(税込)
約1名(予定)



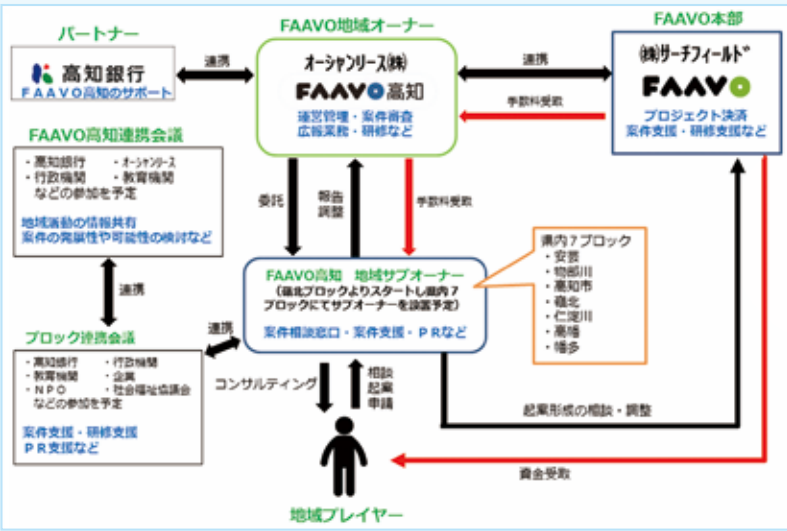
お礼のお手紙
ぼろ布、ハッピーケーキ

3,000円(税込)
約1名(予定)



お礼のお手紙
高知産によるお礼品

▲支援金額に応じて、異なる返礼品が贈られる。



▲FAAVO 高知組織図。より地域に密着するためサブオーナーを設置する。

○広まれ!みんなの力
 現在、プロジェクト数はまだまだ少ない。ゼ
 ひNPOなどで活動している方などに知って
 らい活用してほしい。
 また、プロジェクトの相談窓口になったり支
 援やPRを行ったりするため、地域サブオーナー
 となる団体を募集している。将来的には県内を
 7ブロックに分け、地域向けの勉強会や交流会
 を開くことも検討している。



募っている金額
370,000円 (目標 300,000円)
 達成率 123.37% 終了しました
 募りました

プロジェクト第1弾、
見事達成されました!

私は今回の取材で初めて、FAAVOと
 というシステムを知った。
 現在住んでいるところだけではなく、ふ
 るさどや思い出の地への支援も気軽にでき
 るのがいい。私もちよっとだけ、地域支援
 してみようかな。
 (高知大学人文学部2年 鈴木彩野)



募っている金額
35,000円 (目標 450,000円)
 達成率 7.5% 23日
 支援コースを選ぶ

7月、新たな
プロジェクトが
誕生しました!

優しい社会へ「認知症カフェ」 ココロのよりどころ『えいとカフェ』

わたくしごとだが、近親者の一人が認知症と断定された。そんな中、偶然なか必然的なのか、この取材をすることになった。「認知症カフェ」を通して、改めて認知症を理解し、そして見守り、支え、共に歩む姿勢を考えてみたい。

■認知症カフェ

至極簡単に言うと、認知症カフェは、認知症の方やその家族の方たちが、交流をしたり、情報交換をする場として全国で開設されている。家で一人で、家族で悩まず、気軽に立ち寄って、話し合える場を提供し、地域での認知症の方やその家族の方たちを支えていくことを目的としている。

1人あたり数百円で利用でき、歓談したり、趣味の場を広げたり、そして、介護職や看護師などスタッフによる健康体操や相談などのプログラムを受けることができる。また、認知症の方が「スタッフ」としてお世話することもあり、自分の存在意義を確認するという役割も果たしている。

一方、高知市の「認知症カフェ」では、主催者の自宅や、各種フリースペースなどを借りて9カ所で開設されている。ちなみに、ここで紹介する中須賀地区の「えいとカフェ」は、高知市西部地域高齢者支援センターの支援で月1回、第2水曜日の午後より開設

され、1人100円/回で利用できる。

取材に訪れたときは、高知市が進める中須賀地区の区画整理の住民説明会が組み込まれており、地域の方や認知症の方々が真剣に市職員の話に耳を傾けていた。そのあと、新聞バッグづくりがはじまり、ワイワイガヤガヤ、それはそれは楽しい時間があふれていた。あたかもこの楽しさの仲間に入りたくて、新聞バッグづくりを少しばかり教わったことを頼りに、偉そうに先生ぶりながら、輪の中に入ってしまった。

■3つの「えいと」で「えいとカフェ」

「えいとカフェ」について、もう少し掘り下げてみたい。

えいとカフェのテーマはこうだ。『地域の皆さんと介護の専門職が紡ぐ集いの場』

主催は、「えいとカフェ実行委員会」。中須賀の地区住民が中心となり、高知市西部地域高齢者支援センターが後方支援するという、地域と行政の協働によるカフェである。地域への呼びかけ文句は、次のとおりだ。

○介護のことで困ったら「えいとカフェ」に行ったらえいと

○みんなで和みたいとき「えいとカフェ」に行ったらえいと

○一人で寂しいとき「えいとカフェ」に行ったら仲間ができてえいと

なかなかこじやれており、ほくそ笑んでしまう誘い文句である。もちろん、認知症の方だけではなく、健常者もウエルカムだ。



▲ワイワイガヤガヤ♪新聞バッグづくりで会話が弾む



新聞バッグも佳境に入り、本気度100%。会話が止む▲



▲新聞バッグ完成！みんなの笑顔が弾ける

実際に認知症の方と健常者の方が、「こゝえいとカフェ」には集まってくる。訪れたときは、十数人ほどの地域の方が集まっていた。実にみんな楽しく過ごし、どの方が認知症なのかわからなかった。

無遠慮に「この中で認知症の方ってどのくらいいるのですか?」と聞くと、2割から3割程度だそうです。そして、特別なことをすることもなく、地域人として分かち合い、いっしょに笑い合っているのだ。この肩ひじ張らないゆるやかで、だれでもウエルカムな懐の深さがなんともいえ、人と人の絆という一番大切なキーワードが、砂に沁み込む水のように心のご真ん中に自然に届くのだ。いやはやなんとも参った。

■まだまだ・・・

運営スタッフの目標は高く、地域に愛され、地域とともに歩いていく「地域のひろば」としては、まだまだなのだそう。もっともつと多くの方に利用してもらって、生きていくこと、暮らしていくことの楽しさをみんなといっしょに分かち合いたいのに・・・と。「中須賀地区をはじめここ旭地域には、認知症の方が多いが、上手に誘いきれていない」「理解を得るに至らず、参加してくれない方がいる」

「居宅介護の方が多いため、なかなか来てくれない方も多い」

「ここを知らない人も多い」

「もっともつと、開催日を増やしたい」

「男性を増やしたい・・・最初のころは男性もいたのだが」

■少しずつ少しずつ・・・

まだまだ、課題が多いとスタッフは愚痴をこぼすが、うれしいこともあるそう。

それは、「挨拶」。地域で、挨拶をし合える関係ができてきつたということだ。今までは、すれ違うだけの他人だったのが、顔を知ることとなり、「挨拶」を交わす連鎖が増えてきたという。たったこれだけのことだが、小さなひとこと挨拶が、自分の存在意義をも噛みしめることができ、生きることへの張り合いにつながっていくのだろう。

ほんとにささいなことだが、とてもとても大切なことなんだな、と取材を通じて感じたことだった。

■あれこれ・・・

さいごに、認知症カフェの取材から強く強く思ったことは、人と人の絆だ。ちょっとした仕掛けで絆は生まれ、ちょっとした笑顔で絆は太くなり、ちょっとした努力で絆は堅固で絆は輝き、ちょっとした努力で絆は堅固

になっていくのだと。

すべてはここからはじまるのだらう。ちょっとした理解と分かり合える真摯な姿勢が、見守り、支え、共に歩む確かな信頼関係を築くことを、今日のあたいは、みんなの笑顔から学んだ。

がんばれ、中須賀のみんな!

最後に、この取材に際して、高知市西部地域高齢者支援センターの恒石満美(社会福祉士)さんには多大なお世話をいただいた。「ありがとうございました」

(しのみや)



▲えいかげんガムテープの使い方がなんともいえない「手づくり暖簾」



▲ほんわか「立て看板」

【平成 28 年度の開催日】

8月10日、9月14日、10月12日、
11月9日、12月14日、
1月11日、2月8日、3月8日
※全て、毎月第2水曜日、13時～15時半

【参加料】 飲物・お菓子代として100円

【住 所】 高知市中須賀11番地(田村さん宅)
とさでん交通 旭町1丁目→徒歩5分
JR土讃線 旭駅→徒歩10分

【駐車場】 3台分あり(送迎なし)

※駐車場はありますが、可能な限り公共交通機関等でお越し下さい。

ぽ～れぽ～れ

公益社団法人認知症の人と
家族の会高知県支部



毎月一回、筆者の職場のデスクに届く小冊子「ぽ～れぽ～れ」。公益社団法人認知症の人と家族の会の高知県支部（以下「会」）が発行する会報だ。

高知市市民活動サポートセンターでこの会報を作っているスタッフの姿を見るたびに本誌で取り上げたいと思っていた団体。今回やっと取り上げることになり、高知県支部長の佐藤政子さんとコールセンタースタッフの細木美津さんにお話を聞いた。

■会の取り組み

現在の支部会員は2

80名。主な事業は、

- ①会報の発行
- ②コールセンターでの相談
- ③月1回開催の「つどい」
- ④認知症カフェの運営、その他、毎年9月に開催する世界アルツハイマーデー街頭宣伝、秋に行われる記念講演である。



▲ぽ～れぽ～れを手作りするスタッフ

①会報の発行は、毎月1回。症状への対応情報や専門家の寄稿を中心に、認知症の人を介護する家族に必要な様々な内容を掲載している。

②コールセンター業務は、7年前から県の委託を受けている。開設当初からの介護の悩みを抱える家族から寄せられる電話の傾聴に加え、今では相談の半数以上が「介護保険は知っているがいつ使っているのか分からない」「

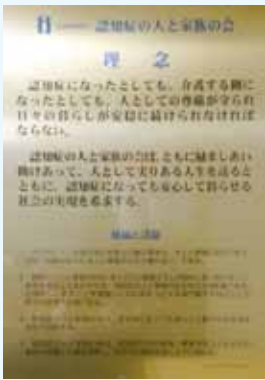
保険の相談窓口がどこにあるのか分からない」など、介護保険やその他の行政サービスに関する情報提供にも業務が広がってきている。

③「つどい」は、福祉専門家の参加もある悩み持ち寄りの会。介護する家族が持つ共通の悩みや苦労話から知識を得る場になるとともに、話すことや聞くことで涙を流し、互いに苦労をねぎらうことにより、ストレス発散にもつながっている。

④そして、認知症カフェは涙の後の笑いの場。様々なイベントで笑いを提供することで、参加者がよりポジティブに考えられるようになり、介護する家族自身も認知症につながる生活習慣病等の予防を学ぶ場にもなっている。県内20カ所の認知症カフェのうち会が運営しているのは、高知市新本町1丁目の「オレンジカフェとさ」。認知症カフェ開設にあたっては、現在1回だけ県から20万円・市から5万円の助成金が支給されることになってはいるが、運営費は自己負担。

■悩みと喜び

そのため、目下の悩みは、厳しい予算の中での運営。委託事業費だけでは十分ではな



▲会の理念「認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。…」

く、介護する家族は負担する5千円の年会費も厳しいため会費増も見込めない。

そんな中で「事務所やカフェの備品は、皆さんが様々なものを持ち寄ってくれる。支えてくれる善意、協力してくれる方々の気持がうれしい」と佐藤さん。

■ゆっくりと頑張れ!

厚生労働省の資料によると平成24年度時点の認知症患者は約462万人。平成37年には700万人を越えると推計されている。65歳以上の罹患率は20%に及ぶことになり、家族の介護負担は益々増えていく。そして介護負担は、夫婦の一方から子ども世代へ移行し、また非婚者が増える中で単身での介護が増えることが予想される。

会の活動は、今後益々必要とされる。何とか頑張ってもらいたい。筆者自身もできる協力をしたいと思っている。関心のある方はぜひ一度訪ねてもらいたい。

「ぽ～れぽ～れ」とは、スワヒリ語で「ゆっくり」という意味。

会には、その歩みを止らずゆっくりとと気長に活動を続けて欲しい。頑張れ!公益社団法人認知症の人と家族の会高知県支部。

(森岡)



▲事務所で取材を受けてくれた佐藤さん(右)と細木さん

愛宕中学校の挑戦!

生徒によるチャレンジ、地域貢献で商店街活性化



高知駅西に位置する愛宕地域。地域の商店街に隣接する高知市立愛宕中学校（以下「愛宕中」）では、「地域のつながり」を大切に、地域住民と協働し様々な取り組みを行っている。

愛宕中の取り組みについて、生徒会役員5人（小野川維駒会長、岡本向日葵副会長、臼杵亜紗副会長、宮地こみ書記、伊吹悠河会計）担当の先生2人（川村綾先生、塩田文範先生）からお話しをお聞きした。

■生徒が考え、動く地域貢献

阪神淡路大震災から21年目の平成28年1月17日、愛宕中学生と地域住民およそ700人が参加して避難訓練を行った。

愛宕中は地域との繋がりを目指して、生徒会活動の柱を地域貢献に置き、**あ**（あいさつができる）**た**（たのしく活動する）**ご**（ごみのないきれいな学校）を目標に活動を行っている。地域ぐるみの避難訓練もそのひとつである。



▲生徒会役員と担当の先生

■愛宕商店街を活性化したい

南北に約300m、住宅街に隣接し住民に身近な商店街として親しまれてきた愛宕商店街。しかし、愛宕商店街も、時代の流れや大型ショッピングセンターの進出等で、スーパー、

八百屋、干物屋、おもちゃ屋など親しまれてきた店が次第に閉店した。

そこで、自分たちにはできないことはないか、愛宕商店街を活性化したいと、愛宕商店街活性化プロジェクトを立ち上げた。

■愛宕商店街活性化プロジェクト

愛宕商店街活性化プロジェクトは①涼しい夏を商店街に！②フラワーロード作戦③クリーン作戦である。

具体的には、アーケードに風鈴やプランターの設置、よさこい祭りでのオリジナル団扇配り、公園や商店街の清掃活動などを行っている。

こうした活動は、商店街や地域の人たちから「中学生が、こうやって商店街のためにやってくれることがうれしい。ありがとう」と喜ばれている。

■あ 繋がりはあいさつから

「愛宕応援団」は、愛宕中学校区の保護者や地域住民の、できるひとが、できるときに、できることをしようということ、平成22年1月に発足した、かるやかなコミュニティである。愛宕中学生会ではこの愛宕応援団と協働して月1回、校門で「あいさつ運動」を展開してきた。



▲校門での「あいさつ運動」



▲愛宕中オリジナル団扇

人と人の繋がりはあいさつから。気持ちのいいあいさつや、やさしい言葉がけは、相手を思いやる心を育むことができる。だから、愛宕中は、「おはようございます」が自然にできる。

■た 規律を守ったのしく

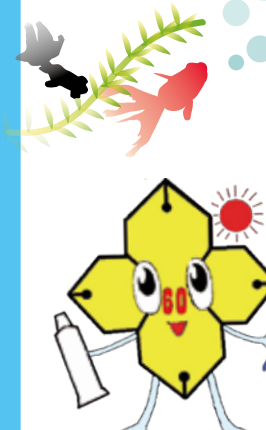
学校生活を充実させ、楽しく過ごすための基本は、ルールやマナーを守ること。それは社会での当たり前。

生徒会では、役員による服装点検や自転車置き場の整頓、みんなで協力し合う体育祭や文化祭などの行事、またチャイム着席などをとおして、気持ちのいい、けじめのある楽しい学校生活を目標としている。

■ご きれいでごみのない地域に

生徒会が中心になって行う風鈴を飾る時や片付ける時の商店街の清掃、また、愛宕応援団も参加しての夏休みの愛校作業時、学校内の清掃はもちろん学校近くの公園の草引きを行い、過ごしやすい地域にしている。

地域貢献の醍醐味を味わった生徒たち、彼らが、学校や地域を巻き込み、学校という枠を越え、地域の現状を変えていく原動力になる人材になるものと期待は膨らむ。



愛宕中のキャラクター「あたごちゃん」

(のむ)

フクちゃん 80周年おめでとう

©横山隆一

5つ間違い探し!

みんなが僕のためにパーティの準備をしてくれたんだけどこの中に5つ間違いがあるよ!探してみて!



横山隆一「フクちゃん」



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。
URL:<http://www.kochi-saposen.net>

つぶやき

#編集スタッフの



@おおの

暑さと湿気さえ我慢すれば、夏は大好きな季節。今年もアイス、かき氷その他いろいろ食べまくりです!! (*^o^*)



@岡村

GW あけて一気に夏本番のような暑さ! ホテルも花も去年より早い時期に終わってしまっていて、どんどん亜熱帯になってるような...かき氷が恋しいです。



@たまき

夏は好きだがストッキングが苦手。暑くないストッキングを開発してくれる勇者がどこかにいないのか。出資以外で手伝いたい。



@横田

夏の楽しみといえばビール。青空を見ると冷たいビールを飲みたくなる衝動を抑えるのに一苦労。...と年中ビールを飲む口実を探しています。

読者の声

「リハビリキッチン」の記事が良かったです。楽しそうなのですが伝わりました。このような取り組みが広がれば、歳をとるのも怖くない!と思います。

【高知市内 女性】

寄付メニュー、いいですね。知りませんでした。お店に行くことがあれば、協力したいと思います。

【高知市内 女性】

えぬびい Oh !バックナンバーは、高知市市民活動サポートセンターのホームページでご覧になれます。

発行 高知市市民活動サポートセンター
認定特定非営利活動法人
企画編集 NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665

E-Mail: npokochi@siminkaigi.com

WEB: <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています